

幕末中京文人連の西鶴受容——事項・出典一覧（その一 笠亭仙果）——

竹野 静雄

凡例

一 小稿は、別稿「幕末中京文人連の西鶴受容——種彦ゆかりの町学者たち——」（『三松』二二集 二〇〇七・三）のデータ篇として、さしむき笠亭仙果・小寺玉晁・平出順益・生川春明らの著作における西鶴関連事項とその出典をパノラマ化するものである。考証随筆の成稿過程を理解する一資となるであろう。

一 今号には、紙幅の都合上、笠亭仙果のそれのみを掲出する。

一 書目の排列はおよそ時系列とした。

一 西鶴作品はおおむね次の略称によった。

一男（好色二代男） 二男（好色二代男・諸艶大鑑） 諸国（西鶴諸国ばなし） 五女（好色五人女） 一女（好色二代女） 不孝（本朝二十不孝） 男色（男色大鑑） 武伝（武道伝来記） 永代（日本永代蔵） 兵揃（好色兵揃・色里三所世帯の改題改竄本） 武義（武家義理物語） 嵐無常（嵐無常物語） 新可（新可笑記） 桜陰（本朝桜陰比事） 新吉（新吉原つねぐさ） 新小夜（新小夜嵐・枕久二世の物語） 胸算（世間胸算用） 置土（西鶴置土産） 織留（西鶴織留） 俗つれ（西鶴俗つれ

ぐ) 文反(万の文反古) 名残(西鶴名残の友) 一目(二目玉鉾) 大矢(西鶴大矢数) 太郎(太郎五百韻)
 なお、当時西鶴作として記載された三代男(好色三代男)、真実伊勢(真実伊勢物語)など非西鶴作品には▼印を付したう
 え、出典欄に() 書きした。

一 出典欄における略称下の数字は、おおむね「巻——章」を表す。
 一 明らかな誤記・誤伝事項には▼印を付したうえ() 内で訂正した。

一 笠亭仙果

No.	書目	事項(抄出語等)	出典
1	おし花二	○上々吉諸白有／掛看板／鴻の池・伊丹・池田・山本・清水・小浜・南都・諸白の名酒／鞘とがめ／よしや組／神祇組／伊勢守の御膳酒／すゑ葉の菊／可さかづき ○つくりひげになげ頭巾 ○鐘が崎／練馬の木工左衛門 ○跡さがりのあたまつき／紋羅／女郎と若衆との二つ紋 ○太左衛門橋筋の茶屋者／舞台	俗つれ一・二 同 一・四

子／仕舞太鞍／玉子酒／仕出しの後家／味噌酒／蓮葉女 ○くばり札／浜茶屋／九兵衛が西請の座敷／日本に七所の名水／いたり下屋敷／中二階／紫の手ぼそ／髪切すがた／加賀笠／ころもびくに／ひとへぎり／名 の木 ○小倉ちゞみの帷子／段染の畳帯／浅黄緒の京草履／糸竹 ○深編笠／御合力買／つきつけ 売／恋の中のく／中宿より／山のはぞめ／なゝこ織の道服／	同 二・一
--	-------

北さま（替名）	
○大和屋座／四でう三味線／一のやの十郎べふし／南江の座敷屋／台所船／髭籠もりのさしみ／小御座／中幅の前むすび／弥七・庄左衛門都の末社／西南の二色あそび／三瀬八十郎／吹田といへる法師	同
○小琴／こざつま／頭巾なし	二―三
○うねたびはき／牛窓の嶋崎	同
○備中の国細谷川	同
○名利の千金／善根の半銭	三―一
○吉野の片里	同
○花橘／井げき（堰）／重ひら（衡）	三―二
○柳／舞鶴／大宮人の御前酒	
○笹舟／蠅かしらの鮓／玉狭網	
○祇園町清蔵／花崎左吉	
○野郎扇子／飛子／すまたの足のもじりやう／延組／粕味噌の行水／くすね抜の毛の穴	

○生駒屋の伝六／水屋能	同
○あかてぬぐひ	三―四
○むらさきのかはたび／ひぢりめんのきやふ	同
○菊酒／にしきの棚／勢田うなぎ／近江鮎／茶壺／梅の尾／二口屋／留山／八木／鳥のはねよりにして	四―一
○ふきびん	同
○鬼の面に杖そへ／紅嶋／るりこん	四―二
○乱れ萩／帯はくろきびらうどに大紋の石だゝみ／抱へ帯／しのび帯／なまりのしづ／惣浅黄／こんがう／すりあし／しめつけしまだ／平髻／白檀の本地	同
○釣瓶鮓／蔵王権現も片足あげてまします／兵庫まげ／飛紋／しゅちんのとをしゑり／むらさきの革足袋／ぬりがさ／めつき	四―四

のくわん／いたゞき／赤いしめ 緒／ばら緒のわら草履／おとし がけの大嶋田／しのびもとゆひ ／中疊／庵形のさし櫛／伽羅の 角梯枝／水鹿子の下着／式尺三 寸の袖下／小鳥づくし／吉弥仕 出しのうしろ結び／しづをかけ ／白りんずの二重ゆぐ／弥郎紐 ／八兵衛さしの木地つづら／千 筋ごよりのかみひも	同	五一一
○野秋にかゝり名残おしさは朱 雀の細道／玉村吉弥／壺入 ○夕御膳／杉焼／小鳥づくしの でんがく／初鮭（自注「おごりたる いへのさまなり」） ○高はし／出羽（自注「新町揚屋町 住よし屋基太の妓か」） ○四町の女良高下合て千三百余 人	同	五一二
○吉原は淋しく見えて内証のは		

同	三	<p>んじやう／宮烏（書名）</p> <p>○流女／油三<small>ゆうさん</small></p> <p>○身体袖鑑（書名）</p> <p>○坂田藤十郎</p> <p>○日本永代蔵・本朝町人鑑・世の人心——三部の書</p> <p>○シマバラへ<small>カヨフ所</small>柚味噌／酒麴／板焼／京中八十二人の未社／出口十七軒の茶屋</p> <p>○連歌は新座池／梅翁／立花は池の坊に相生／紫腰／金森／物読は宇津宮／碁所に二つ／一中がゝり／大金貝／山口円休／葉山／岩井／嘉太夫節／弥七が文作／あふむが物まね</p> <p>○寛永年中の古帳</p> <p>○浅黄にちらし菊の絹／しゆちんの帯に紫革足袋／肌着に白小袖をはなさず／ひつかへし／藤</p>	同	五二三
同	同	織留 <small>団水序</small>	同	一一一
同	同		同	一一二

車の紋所を石うす程に／百品染 ／腰のみえぬほとまとひ／瑠璃 のさし櫛／さんごじゆの前髪押 へ／針がね入のヒ髻／御所白粉 ／手足に袖の水をつけ／茶繻子 の引敷／延の鼻紙に壺打のやう じ／台天目	同	二一
○されば人出生してより	同	二一
○葛笠	同	二一
○「もち屋の図」(挿絵・部分)	同	二二
○「書画(絵)小袖」(同)	同	二四
○竈の上塗を仕に／釜みがき／ 餅米のあらひ賃／お座敷の腰張 ／年徳棚／猫の蚤も取／皮立付	同	三四
○花色ちりめんの長羽織(自注「医 者の風」)	同	四二
○伊勢御師の料理／びくにもの もらいの事	同 ▼(四の巻四回)と誤る)	四三
○まなばし	同	五一
○時花染／大幅の絹帯／置綿／	同	五二

二日喰いでころりと死ども／大 森の幅の紅(うち)／ちやの繻子 ／べつかうの惣すかしのさしぐ し／紅染のかゝへ帯／月に六日 ／六度の庚申参り／八日・十二 日宵やくし	同 四	
○はねつく／丸袖	胸算	二二
○所務わけのたいほう／若衆宿 のなら茶／鳶鳥／杉焼／飛弾嶋 の羽織／瓢箪公事／竈將軍／八 坂／久七／たけ／蕪菜／日野き ぬのふし／猫さへ眼三寸／わけ 里／奥さま／風呂屋もの／茶屋 もの	同	二三
○朱雀の細道／焼印の大あみ笠 ／帥ごかし	同	二四
○葉付のぼたん／四つ銀杏の丸 ／柳すゝたけ／みだれぎりの中 形	同	三二

○正月小袖／千種の細染百色かはりの染賃／帯とてもむかしわたりの本繻子／小判二両のさしぐし／白ぬめのたび／舞／大黒舞／五文の面／張貫の槌	同 一一一
○千本松のすそ形／夕日笹のもよふ／中がたのしのぶ小桐／肩さきから染込／郭公の二字／ぶどうだなの所／につるはをあかね	同 五一
同 五	
○加賀笠／銀のかくし紋／ばらのをわらざうり／石畳を五色染の湯具／ぐる／わけ／（上記女装束の挿絵・臨写）	兵揃 三十四 （二二）巻と誤る
○らいがうばしらは金ばく女のゆぐはひぢりめん／うぐひすちや／竹の皮がさ／しめつけしまだ	（真実伊勢一一二）
同 九	
○諷来／よね／柿暖簾／物日役新吉上 日／くがひ／似せ紫／よしなか染／紋日／格子女郎／時花草紙／江戸鹿子／外八もんじ／ひねり腰／替禿／月影汐／河内がゝり／なげぶし／くゝり枕／万屋／丹波越／吹ぬきづきん／御茶水／太夫／散茶／はし女郎／つぼね／かゞぶし／つきぶし／色糸／木枕／飛子／長徳寺／お敵／書物／よし原丸裸／同大全／同雀／同源氏／ぬれうた／花屋／女見（女衞）／人置／勝山／鬢切／太髻／丹前流／若茹のあさづけ／熨ぬきの玉子売／けんどん箱／納戸めし／さゝげめし／笹葉／羽紫／三挺立 ○三浦 ○すり切／揚銭 ○たいこ（太鼓）／神楽／願西／	同 下

同 十	あふむ／乱酒／花咲／芸わたし ／久慶／本手		
	○風流の折／猿屋／花づくし		
	○牛		
	○ふなこぼれ		
	○うき世人形		
	○千代		
	○さはる／間／又間／本客		
	○玄／法印／法師さま		
	○桶に水をたゝへ		
	○すてぼうく		
同 十一	○唐物屋の清		
	○（二の一の書き出しー朱線語なし）	桜陰 一一一	
	○青貝置の鼻ねぢ	同 五十八	
	○小六の宮（『足薪翁百語』より抄録）	男色 三十五	
	○竹杖のよはほんのりと明にけり（同）	物種集	
	○普請奉行小六突たる竹の杖	大矢 九	
同 十二	（同）		
	○かみする女／女郎買／うはもり	置土 序	
	○小畠染／平帯／大鶴屋が扇／奥しまの風呂敷	同 一一一	
	▽うどん・そばを商う煮売屋（挿絵）		
	○しやくしの徳入／柳真那板	同 一一二	
	○鳩の目／香車の久米／やりてのくめ／書院毛貫／二疊敷のすまひ／唐紙のもやうは立田川／仁介／くめ／諸分ちうろくてん／ちんからり／かけ釜／京屋五十本之内／金太夫／鬼の手形	同 二一一	
	○しのび御座舟／みねのござらし／ゑびす嶋の遊興／四季小紋／千種色／八文字屋／お町／筆屋		
	○佐渡嶋屋／たかま・奥州・あ	同 二二三	

げまき・かづらき・あづま・むらさき・吉田／金太夫／少女房・丹波屋のこざつま・井筒・小琴／明石屋のもろこし・よし野／住吉屋の瀬川／堺屋の君川／又七が初瀬／大和の大じん／廿四人の太夫／百三十式人	同	三一一
○掛銭／一幅帯／三野／高尾・薄雲／髭の長兵衛／土人形の水あそび／かはり加賀／よねぐるひ	同	三一二
○千とせ・唐崎／沓／髪切／長命丸	同	三二三
○土仏の水あそび／団や権七／黒米のうち込茶／蟻のさしみ	同	四一一
○米一石に付拾八匁／舌人五分づゝの奈良茶／清水町のかくしよね／深川八まんの茶屋者／二人老分（歩）／三人老歩／三野／かきのふれん／はし切の鼻紙／	同	

お町／影の長兵衛／寢覚提重	同	四一二
○三木／唐土／熊谷の大ぶりな金 <small>の</small> 盃／上林の金太夫 <small>（自注「金の盃をすて珊瑚の盃」）</small> ／七厘釜	同	
▽刻み煙草屋 <small>（挿絵）</small>	同	四一三
○めつた的の徳兵衛／ぼんの長兵衛／浮世小路／女良の着物にゑりをかけける／刀友が妻川／布平 <small>（が）</small> 小太夫に金 <small>こがね</small> の櫛箱	同	五一一
○内証／はしら暦／陰子／花山藤之介／岩滝猪三郎／夢川大六／松風琴之丞／塩の長次郎／深草勘九良／鈴木平八／雪山松之介／くしろ／玉の井	同	五一二
○本手のこうた	同	五一三
○つぼうちのやうじ／堀川午房／香の図のやうなる物	同	
○森坂妥女・秋津左京	武伝	一一一
○小筒に鎖玉を仕込み火鉢切 <small>はさま</small> て		

かけよるを ^{云々} ／花餅／引語り の淨るり／山吹餅	同	一一二
○事かな／太夫名 花のえんと云	同	一一三
○此本さし画 次第鎔衣したり	同	一一四
○天 ^{びろうど} 鷲免	同	二一一
○腑甲斐	同	二一二
○この五月五日 てづからけた る 八日御ゆびのなきをみつけれ ふ／□□の日 三月廿七日 兄分 の待自□也	同	三一一
○町六方	同	三一二
○二丁町／かはりさんさぶし	同	四一一
○上意打	同	四一二
○ごもつあがり／御用人増見勘	同	四一三
六／ざうりとの名宅平		
○菱蔓	同	五一二
○家老相尋／水越外記	同	六一一
○上覧二十五日 さくらの庭にて	同	六一三
○小見山	同	七一四
○御物あがり／計り塩／葉蓂若	同	八一一

／虫 ^{むし} 歯 ^は の妙薬／負箱 ^{おひ} ／編笠／ 屋形町／酒機嫌／鞆あて／内証 ／真綿／引矢筈／みよしの染／ 只者／さしあひ／ひとり笑いの 人形／三月五日 出替り／人置／ 貴さま／女郎分	同	八一二
○前振／雨羽織	同	八一三
○耳にかふる／手形／驛 ^は 他／境 垣／わな（輪穴）のもじ／しほり たばこ入／もたれかゝり／立か けの髪	同	八一四
○胴辛焼／五百八十年	同	
○年玉／人に鬼はなし	文反	一一一
○はんじものゝうちはや／高崎 たばこ／印肉の墨／冷水を売／ 蚊ふすべ／百を八文つゝにて茶 うりの紙袋／売切五分	同	一一三
○始末もの	同	一一四
○「我等ひとつも気に入申○」	同	二一一

同 編数不明
(静嘉堂文庫本「十五」)

申ノ下 さずノ語脱欵ノ舍利寺	同	三一二
参ノ奉公難ノ本国寺手木ノ下の	同	四一
つやかのこノしんぞく	同	四一
○ふがひなき	同	四一
○息も鼻も	同	四一
○此方ハ江戸ヲサス(原文「此方も 世上かしこくなつて」)	同	四一
○ちばむしろノほり川の午夢	同	四一三
○かけあいの(食)	同	五二
○そなた様	同	五三
○小口ニ大序とあり	男色 序	一一
○腰掛ノかはらぎノばらく	同	一一
鶏ノ念友ノ摺粉あま物ノ前後見 るノかぶき子ノ十五 ^{かこひ} ぐるひノ飛 子ノ念比すノきやふノ木綿帯ノ 誓紙ノ家質ノ御城米ノ樂屋がへ りの網笠ノお位ノ高野坊主の小 性ノ手懸者ノ竈払ひの神子ノ伽 羅の油を売子ノ中間部屋ノ子共 宿ノ三十日切の若衆ノこんがう	同	一一

ノこまがねノよねノ香具の若衆 ノ秤目せゝるノ川御座ノゆたや かノ御物ノ大ふり袖ノ尻目ノふ たつどりノ心立ノいや風ノひと つ口ノもつたいなしノかた耳ノ 聞ながし	同	一一二
○まかせ水ノ笹葺ノぬれの耳ノ 山草ノ書出しノ自髪ノ煙子ノ樽 は口ノ久三ノ鼻紙袋ノ木地笠ノ 御所乗物ノ四つ紋ノ玉むすびノ 夜習子の事ノさらへ書ノ思ひ葉 ノ庄兵衛	同	一一三
○長浪人ノ念友	同	一一四
○念縁ノ髪ノからずきノ貴様ノ 丸袖	同	一一五
○花粉ノ地紅ノ様子者	同	一一五
○すゞし「頭書」按ずるにすゞ しは稲つかの事なり尾張辺の方 言いなつかをすゞしといふをも てさもやとおぼゆ	同	一一一

○恋無常	同	二一四
○それぞれ(の)敷銀／おもひど／指羽	同	二一五
○下職／美道／手づま／折柳／当言	同	三一
○わたり待／庭籠鳥	同	三一二
○房枕	同	三三四
○時花扇	同	三三五
○家継／抱姫／御乳／千年鳥／生れぬさきの襦袍さだめ	同	四一
○神ぞく	同	四二
○花舟／一画付の筆慰み／はなれ物／心外	同	四三
○売手本／幸の橋／うき浜／不 断／壺打の楊枝	同	四四
○始末／無心／染分／つまり肴 ／横に車／ <small>すみくち</small> 濟口	同	五一
○東西く／滝嶋	同	五二
○七玉川／家牀の御簾／女井筒 ／四つ竹一平次／浮世絵の名人	同	五三

3 なるの日並	2 よしなし事二	花田内匠／鎔鼻／筋骨をいためる時花病／出尻／僧傘もて寺をひらくといふ諺／土氣／厚鬢／火打石壳／くらまの火打石／美道／指はさゝすまじ／見かざる／機嫌とる／床もしめやかに／身にこたへ／野臥	同	五十五
		○看板	同	六一二
		○小桜千之助	同	六四
		○定紋てうちん／長廊下	同	六五
		○つきく／年玉もらひし延齡丹／遠慮	同	
		○町家の結婚式の女の髪型「つどざしのさげがみ也」	俗つれ二二三 (挿絵)	
		○上方におけるマグロの呼称「西鶴などはめぐろと称ふ」	胸算	一一二
		○安政二年十月十二日「かりまゐらせたる書ども(中略)一目玉	一目	

4

好色一代男

(頭書)

鉾 六冊 皆焼失ぬ

○色道ふたつにねてもさめても

一男

一一

／名古屋三左／加賀の八／七つ

紋のひし／酒びたし／わかしゆ

出立／すみそめの長そで／長袖

／たてがみかつら／かつらき／

かをる／三夕／身請／てうち

く／かぶり／四つのとしのし

もつき かみおき はかまぎもす

ぎて／かけがね／なんてんの下

ばしげりて／敷松葉／ひしぎ竹

／大事がる／くらがり／こひは

闇／まもりわきざし／ほんの事

／事つのる／をりすゑ／花つく

りて／ふどしおびもてづからま

へにむすぶ／兵部卿／よせい／

いか／一夜のほしの雨ふりてあ

はぬといふ／手日記

○文月七日あぶらの□□□□か

同

一一二

なあんどん／すゞりいし／宗鑑

一夜庵のあと／滝本流／師弟の

けいやく／手本紙／はゞかりな

がら／指南坊／△さはいへ(いか

ゞ書べし)キをシとあやまる格／なれ

く／しく／たへる／目つき／ご

がてんあるべし／いとまき／お

れ／あきればてゝ／鳥の子紙／

なを／がき／しめ木きぬた

／きぬばりしいし／はしたの女

まじり／恋のそめぎぬ／御りや

うにん／ふだんぎ／なでしこの

腰形／□□□□／一季をりの女

／京の水／あか馴しを／たびは

人の情／おぼえもなく／赤面／

ことばあらけなき／御出家／し

どもなき／人の口／世の人並／

さる方／心と心に何事もすまし

て

○男芸／銀みならふため／しに

同

一一三

一ばい／かりてがた／欲の世中
／見越のやなぎ／しのべ竹の人
よけ／さゝや敷のかたびら／女
のかくしだうぐ／菖蒲湯／中居
ぐらゐの女房／かべに耳／なが
れはすねのあと／ぬかぶくろ／
ちんのとをめぐね／儼間／袖が
き／きり戸／めいわくながら／
髪□／つかみさがす／小箱／芥
人形／おきあがり／ひばりぶえ
／大事のもの／さまに（なに惜し
かるべし）きをしといふ誤格／たらず
／うれしさうなるけしき／やが
て／なきやます物／ひざまくら
／□□□くろぶたにしほをそゝ
ぐ／懷／乳母／ごむしんながら
／もらひませう／はらかゝへて
わらふ

○十歳の翁／若道のたしなみ／
下坂小八がゝり／びんぎり／た

同

一四

てかけ髪／心をみがく／天のあ
み／小笹にもち／赤づきんをき
たせるふくろふ／いつそ／袖笠
／まゝよさて／でつちがつくり
ひげ／からかさ／御名ゆかしき
／かへざうり／くしだうぐ／そ
ゝけたるおくれをあらため／い
か計あるべし）きをしといふ誤格／夕
虹／△かず／／きのどく／
こひしらずの男松／思はれ人か
な／袖ゆく水／身のとりおき／
長明の男色の事／不破の万作／
あきのよの長ものがたり／寺か
ら里／さあいやならば／こづら
もにくし／出合／うすやくそく
／風吹土／夕ざれ／道路／むご
き心入／△橋かくる 輕妙

○新枕とよみしふしみの里／し
もく町／やりや孫右衛門／墨染
の水／さしかゝる／まはりどを

同

一五

き恋／ありさま／茶師の手代／
六地藏の馬かた／風呂しきつゝ
みにしきみちまき／くわんざし
／□□□／つりかうし／唐紙／
もちなしから／しまばらのきお
ろし／あやめ八丈／からおりの
ふるぎ／かるく／なぐさみ所
／断りなし／こしかくる／紙入
／そこく／うきつとめ／さ
ぞ／人さま／不自由／こし張／
をのゝたき炭／よしの紙／悲田
院のうはばき／御幸のまつり／
売り日／たれさま／あらくせが
まるゝ／里はなれ／おやたち／
無事／あかねほり／おとろい／
袖乞／人のきらふわづらひ／や
り一すぢ／朱鞘の一こし／さつ
ぱりと／こゝろ入
○かりきりの小舟／付ざし／源
氏酒／舞つる花橘／樽の口きる
同

／袖ちいさき／すそみじかき／
いそくさき／延齡丹／しんきを
とらす／衛土簾／しやくし／す
りばち／世帯道具／兵庫の遊女
／半夜とせはしく／いたゞきて
さし捨／□□□□／風呂やも
の／中高なるかほ／秀句／うす
約束／あがりゆ／ふろ／ちらし
をのまする／びんみづ／風儀ふ
ろやものゝ事／白帯／久三／はさ
みをくれるはづ／置わた／がん
くび／身もだへ／鼻紙／たくよ
くむよ／事かけ／さもしき／
丹前風／事／袖口ひろき／つま
たかき
○茶宇嶋／前巾ちやく／つゆ盗
て／小者あがり／わかきもの／
さしかゝり／細道の萩垣／梅に
鶯の屏風／かしの木のさほ／う
るみしゆのたばこぼん／たどん
同

のうづみ火／とさん／ぎをんさ
いくのあしつき／杉やきの事／
つけ梅／色付のはじかみ／ぬり
竹ばし／ふぢいろ／りきんじま
／わけしりだて／ちやじゆすの
はゞびろ／はさみむすび／朝鮮
さやのふたの物／のべ紙／かず
やうじ／四つ折髪の手／朱ぶた
のつる／さゝ　　たうべ／みのな
るかぐ／はまやき／おさえます
る／銚子かへる／こしつき／や
りくり合点か／二つをりの絵む
しろ／木枕／りきん嶋／うそよ
ごれたる／はなうた／声がはり
／おとなはづかし／くはんさ
まのお引あはせ／お中にやうす
ができた／子安のお地藏／御
ざり／大義／百の餅舟／とゝ／
きづかひなし／帯とく／口をあ
かせず／わるごうあるほど／さ

しうつむいてものいはず／出替
り／ほゝ　　懷／かたさま／白ぬめ
のきるもの／家賃／きさま／気
のつきさうな／おかたさま／一
しほおいとしう／相手をみて／
都の人たらし
○袖ふさぐ／起誓かくる／から
竿／ねぢかご／あまがへるのい
へ／なたまめ／かみひぼのあみ
がさ　　ひぼもノ事／飛子／しの
び宿／こんがう／よろこぶ物／
よこしまのもめんぶとん／せん
だんの丸木引切まくら／すりば
ち／すりぬか／ひぜん　　しつの事
／糸より権三／宮島の芝居／今
井／まめ山／うきなだ／もまる
ゝ衆道心／心いはる／右卦に入
／仕合　　よいといふを略す／としげ
んさく
○いたづら／なじみ／後夫^{ゴフ}／め
同

同

二一

二二

しあはせの戸／くろゝをおとし
 ／自身番／紋所の着物／利発／
 手代／しり声／むやくしき事／
 下主／兄弟一ぶんに申かはせし
 ／なりさま／かけ合／杉原／角
 を入る スミなるべし／きぬかた
 びら／友いと 同じはりの糸の事／
 さいはい菱／かすかに縫せ／ふ
 きかけてぬぐひ／あつち織の中
 幅／ふきかけ手拭（重複）／組戸
 ／人までもなく／お中おかしき
 ／よはにすて子のこゑするはの
 歌 小町ニあり

同

二一三

たん／けぎんちやく／襖障子／
 反故ばり／わけらしき／こぐら
 く／くせもの／くらやど／すは
 ひ／しよく殿 しよく／小づくり
 なる女／片手を四たびばかりか
 ぞふるころほい／おもくさしげ
 き／氷こんにやく／今くまのあ
 たり／目薬／おもや／ならずの
 もりのかきの木／葉鐘たぎる／
 氣づまり／出来業平／天狗金兵
 衛／中六天清八／花火や万吉／
 すぐならぬこひ／ばつくんのち
 がひ／通ひあきなひ／火の用心
 ／たへかね／書くどく／さしわ
 たして／さもしき御志／劔の山
 を目の前／くぐり／手ごろのわ
 り木

同

二一四

つき厚^{アツ}き／カスガ八百八ねぎのこ
ども／かざえ扇／よねの風俗／
竹がうし／盃のさしすて／これ
からみれば／さしわたし／かん
なべのとりまはし／湊紙の腰張
／君命のらくがき／らくがき／
きり戸／ゆと 湯桶カ／くだりぶ
ね／あひどこ／あいさつ／二月
堂の午王／西大寺心を付て／て
き／山の神／まことのすいは寢
へまいらず／これはもつとも／
すれもの／さらしのぬいじるし
／△かための誓紙／うるし判
○絹綿のたな／ぬれ草鞋／ちゑ
つけの為／すゞかの大たけや／
水^{スミ}ふろ／口きくやさ者／やまぶ
きの小哥／しか・山ぶき・みつ
／しば人のすさみ／さらばの鳥
／おやしらずのあらいそ／とこ
ろのしおきばなし／ぜには一歩

同

二一五

になにほど／雨戸にしりさし／
つれぶし／歌説経／出立^デ焼女／
わかさ・わかまつ／みせました
い／口まね／ひだかニとまる／
作病／枕物語／今切^レの女手形
／もえぎの二疊づゝ／お伽／に
は鳥のとまり竹にゆをしかけて
よぶかになかする／つらくあた
る／つかひ金／上気／□□□／
いも川／うどん／さゝぶき／ひ
らうんどん／ゆきかとみれば／
しも里／すてられ道心
○恋に身をもやつし／おふくろ
さま／深川はちまん／築地本庄
／みつめのほしすじ／めぐろの
ちやや／浅くさばしの内にてう
なづく事／ものぬひの小宿／し
ばの道すぢ／店さばきをする／
小分別あるもの／七おもて／す
いかづら／とのちやこまんの引

同

二一六

かへし／かのこしゆすのうしろ
 おび／高ききたびつゝみじかに
 ／かずせつた／小帳／利口さう
 なる男／香具売／入ル 語の事
 入用／神前前花のつゆや／くだ
 り盃／一角／そらねいり／かげ
 ろう／かげま／やしきかた／長
 やすまひ／一年かはり／よこめ
 にしなだれ／とりなり／やかた
 ／ざんぎり／なでつけ／ざふき
 ん／白鴈のどうがら／ふぐ汁／
 もえくいに火
 ○久離^{きうり}きらるゝ／をぎのともず
 れ／あしたのたうふ売／精進腹
 ／こひしらず／あしもとのあか
 るいうち／最上の山ぶし／ひの
 き笠／さんげものがたり／よめ
 がちやや／△もとのみづにかへ
 る／くら者／月がゝりの手かけ
 もの／出合女／名代男／小家ぎ

同

二一七

んみ／いたづらを立／坊主ごろ
 し／色町／とつておき銀／ぼん
 なふのあか／せんだくや／あか
 り障子／手かけもの／うへつが
 た／内義／さもしさ／かせ買／
 替男^{カヘラトコ}／請酒屋／細路次／長屋づ
 くり／北あかりのきりまど／と
 ほし^{ほし}の庭入／引白の目きり／は
 ちひらき／放下師／大みぞ／と
 びざやのきやふ／ぬかぶくろ／
 命盗びと／つりおまへ ツリブツダ
 ン／くゝりまくら／大まないた
 ／いな所にきをつけ
 ○あさごと髪ゆはする／十徳／
 楽阿弥銀の間／まくら絵の襖障
 子／ふすましやうじ／はだか相
 撲／不礼講／謡うたひ／さる引
 やまとの —／戎まはし／日ぐら
 しの歌念仏／売子／浮世びくに
 ／お寺扨^{こしやう}従／歴々／われふりす

同

三一

てゝ／忠兵衛がゝり／公家のお
とし子／つかひ崩す／なりさま
／朱書／切窓／所望／むらさき
のふくさものの／白をゆげにむす
／ゆびがね／さねかづらの雫／
あらひ粉／△二度の喰物／しつ
け方／木綿物　もめん軟／当世女
／丸顔／さくらいろ／目好／姿
絵／着ながし／縫箔屋のおさつ
／捨金／笠屋のお吉／十分一や
ど

○火の当見／瀬枕／しのび女／

一つ庵／小早　船の名軟／花鳥／

八しま／花川／髪長／日和見／

あゆみの板／鼻紙入／起請／指

しぼらせ／油断／舟ばり／木綿

かのこのちらしがた／あかねう

ら／どしの帯まへ結び／もとゆ

いふとく／すべらかしに結び／

盤切／まくり手／さくら貝／さ

同

三一二

はら／いとより／馬刀／いしが
れい／じやう／やく／小倉肴売
遊女のなる事／脚布／下関の遊
女／うちかけ／長崎屋　にな川
／茶屋　越中／たばこ屋　藤浪
／尋常也／三八／咄のたね／お
てき／一度　く　におさえて／
酒ぶりかたし／馳走／むりまじ
り／座配／密夫／やりくり／む
ごく

○矢倉太鞍／藤村一角が旅芝居

／はやしのかたの庄七といへる役

者／着おろし／品之丞／若女形

／花屋／たばこきり／かごかき

／かきぞめのれん／紅うこんの

きぬ物／かちん染の布子／しま

しゆすの二つわり　帯軟／赤前

垂／桐の引げた／たばね午房／

花柚／立島のきる物／質の札／

かまどちかきもの／はたおる女

同

三二三

さへ給分／半季居／問屋かた／
 はす葉女／子おろす／はした銀
 ／正月着物／そばきり／置綿／
 ばら諸のせつた／一口咄し／耳
 こすり／べつかうのさしぐし／
 本蒔絵／恋のさむる／中宿／物
 つかふ男／御無心／うか／
 ／中衆／上荷さし／小米屋／出
 合宿／たはけを尽す／（何にかな
 るべし）きをしといふ誤格／かい暮
 ○内証火がふる／万懸帳らちあ
 かず／くぐり戸□□□□／世が
 たり 末の――／あふぎは――
 ／おゑびす／若ゑびす――と
 うり声／ものもふ――／手鞠
 ／羽子板の絵／化想文よむ女／
 暦のよみ初／ひめはじめ／二日
 は越年 せつぶん／厄払／ゆめち
 がひの摸の札／せつぶんたからぶ
 ね／おにうちまめ／かけがね／

同

三一四

昔し扇／庭鳥のまね かよはせぶみ
 ／大原のざこね／内義／牛つか
 むばかりのくらがり／風情／い
 たゞきつれたる黒木うり／くろ
 木うり
 ○なれそめ／米びつ／紙帳／お
 きざり／なぐさみ女／北国の気
 候／金入の襟／おびはいまおり
 ／ふたのはゑちごさらしの赤染
 ／△□□□□□□事／きは墨
 ／ぐるまげ かみ／△かみのさ
 ま／水引／赤いはなおのせつた
 ／チヨコ／あるき／なりふ
 り／△五勾づ／人ごろし 遊
 女／小金 遊女／薄べり／押絵／
 □□ゑ／よしのまゐりの人形／
 板木押の弘法大師／単のよめい
 り／鎌倉団右衛門 多門庄左衛
 門 つれ奴／あづきめし／ほたて
 ／香の物／小鬘／ひもじ／まい

同

三一五

れ 食し給へ也／酒事／かべ一重

／三国一じや／ざゝんざといふ

小歌／世はひろい／柴垣踊／耳

組の御座／松竹鶴亀をそめこみ

のもめんやぐ／南がしら／寺泊

の遊女のさま／くすくす／とは

いる／肺布／いな所／はじめの

高雄／うそ腹たつ／むく起して

／はたらく女／大氣／袖をかざ

し／ふなばた 川岸をいふ也／小

手まねき

○干鮭／霜先／葉喰／勸進比丘

尼／かちんぞめ布子／くろりん

ずの二つわり帯／おりやう 比

丘尼／百に二人／米かみ びくに

でし／虫こなし／諸国のつき合

／おかた 人の妻ヲ云／けいはく

／はすは女／鹿子紋／しゅちん

の帯／おもはれ姿／寝道具のあ

げおろし／朝夕の給仕／湯女／

同

三一六

しやく 坂田の女の事／干瓢 坂田

の女の事／びらしやら／京大坂／

惣稼／脇あけの単色／帷子の

上張／置手拭／あかつけの男／

浜なみ／夜深ては君がねすがた

小唄也／三蔵二介／夜番／在郷

舟／露次／家請／小半酒／たば

ね木の当座売／盆も正月もしら

ず

○あらおもしろのかま神やおか

まの前に松うゑて 神巫の口すぎ也

／あがた御子のいでたち／ひは

だ色のゑり／尋常 やさがたの事

／お初尾／品こそかはれ／神樂

錢／うそなし／おもひ葉／かし

まのことぶれ／是やこなたへ御

めんなりましよ／おそろしおも

はゞ 上方なまりの一格／水戸お仕

置かたちの事／御蔵の粉挽／つ

かひ下主／屋敷町／摺糠／しぶ

同

三一七

りかはのむけたる女／べつかふ
のさしぐし／花のつゆ／八町の
目大宮のうかれ女／仙台 傾城町
なき事／色の道／片小鬘そらるゝ

○年八卦／安部外記／算置／出

同 四一

来心／浮雲／胡散／はとのかひ
／色のあさ黒き／胼胝／さき織
／盃のまはり／あいする／まん
ざらの木男／宿はづれ／はちま
き／おし入レ／片髮鬘／獄中の
さま／公儀のめし／めし 飯／
胴をうたする／世界の図／牛鬼
島／手玉／なれこ舞／いじる／
ぬめりぶし／長い刀の唱哥 長
脇差をぼつこんで をせさ よい
さ／権輿もない顔して／松原こ
えて 唱哥／薄端／塵紙／戸口
をしめ 博奕詞

○御法事／籠ばらひ／くず屋／
味噌玉／柴積車／茄子香の物／
同 四一二

竹のとがりやり／山拐／ぐろ／
ぶり／／おれ 己／つげの
水櫛／辻占／おのづと 自／竹
立てちいさき石塔／せんだん
木名／死人の髪爪を傾城町へう
る事／手くだの男／きさま／分
別所

○世は五つの借物／一寸八分の
仏像／守本尊／ちんからり／羽
釜／里芋／味噌こし／粘篋／鼻
ねぢ／取縄／蠅取蜘蛛／沓文売の
長刀をけづり／天道人をころさ
ず／盃事／とくり／あはせ砥／
鳴子はり弓／はしのか／舞さが
る／心の劔／血しほ／正氣／神
おろし

同 四一三

○女郎達 つねの女を — といふ事
／おはした／枕絵／ひとりわら
ひ／気がへる／歯ぎり／丸裸／
真実／風呂敷包／切手／御用の
同 四一四

物／丹後が本ぶし／唐犬権兵衛
 ／かくまへる　かくまふ也　／あた
 まつき／木戸口／卒度／町人躰
 ／見立／奥さま／思案に及ばぬ
 ／ひかれぬ所／人中／目釘竹／
 △風情／ちびたる／七月十六日
 ○十六番の拍子歌／日待／無間
 のかね／遊山遊興／躍子舞子／
 かし座敷／十日切の手懸者／て
 かけもの／金子／酒友達／月代
 をすらせ／うらつけ袴／もゝだ
 ち／ぱつぱの大小／おとしざし
 ／虚無僧のあみ笠／太緒の雪駄
 ／位勝げ／通ひ扨従／あいの女
 ／遊び宿／口鼻　婦　芸愛　愛也
 ／切抜雪隠　四条の　／中居腰
 もと／手目ならぬ御方／しのび
 戸棚／内証／あげ畳／簀子／空
 寝入の恋衣／洞床／後室模様の
 きる物／大綿帽子／房付の念数

同

四一五

／符作り女／かみさま／油断／
 手だて／後世の引入レ／墨衣／
 しるしの立くらみ／出合茶屋／
 赤手拭／ちぎりの隔板／ぬぐひ
 板／らく寝／路てん／あふね／
 湯殿のたゝみばし子／くら事四
 十八／内義
 ○長明寺／石垣／御上家の女中
 ／浪屋／是は　／水鹿子の
 白むく／紫しぼり／青海浪／紋
 所銀にてほの字切ぬかせ／五所
 のひかり／帯はむらさきのつれ
 左巻／緯目／鉛のしづ／水引／
 きどく頭巾くろしゆす／木地の
 つゞら笠／たびは白綸子に紅を
 付／ふだんがけ／ばらをのわら
 ざうり／風俗／御所方の御女郎
 様／けつこうな事かな／松本名
 左衛門／△かいやりて／善吉／
 仕かけ／はさみ箱もち／よしや

同

四一六

がゝり／正月十六日／人形店／ 藤六 見齋 粉徳 麦松／小太夫 けいせい／まくり手／色町／丸 太屋／はさみ箱／色人／石州 けいせい／接竿のこくたん六すぢ がけ／僕／らうさい／たいこ女 郎	○天秤はり口のひゞき／引籠り ／紫の綿帽子／權立るならはし ／丹波太郎／埋れ貝／柳の町／ お袋さま／煎豆に花の咲／明白 実正也／弓矢八幡百廿末社／大 大大じん	○よしの太夫をいたむ歌／よし の鉄職の恋をかなふる事／駿河 守金綱 小刀かぢ／五三のあたひ ／吹革祭／勝間もめんの下帯／ こそぐり／への字なりに埒明け る／通ひ女／触状／築山のかけ づくり／浅黄の布子にあかまへ
同 四一七	同 五一	

だれ／おき手拭／へぎ／きりの し／三すぢ町／とけい／無常咄 し／内義／樽杉折の山／しま台 ／九十九まで	○芋がうなぎになる／もどりか ご／のつたりや勘六／とまりじ やござらぬか／野躰／めつたぜ きにせく／けつかうなるいせま ゐり／ねりもの／大坂のくろふ ね 馬の名／ふしみのさゞなみ／ よどのはんくはい／のりかけ馬 ／七つぶとん／馬のくつにから いとをはかせ／四つがはりの大 ふりそで／ないまぜのかさひも ／こむろぶし／かたさま／じだ らく／頭をふる／丸太舟／浦辺 のれふし／小問屋／こじりとが め／さばき髪／はなねぢ／兵作 ／小太夫／虎之介／立酒／閑送 り／一日買／かきもち／鏝／枕
同 五一二	

屏風／手拭かけ

○嶋布／しまふたや／へうきん

同

五十三

だま／ぬけ舟／そらほでり／△

こひのみなと／投づきん／大を

どり ほんをどり／馬鹿／アゲヤ 橘

ぶろ 丁子ぶろ ひろしまぶろ

まるや ひめぢや あかしや

／千年川といふ香炉／あつわり

香木／ぬぎかけ／はだかたび

ら／地藏の紋所／もろかづら

香木名／なづむ／ねかけ姿／動き

がとれぬ／首尾の時のてだれ／

巾着

○若衆ぐるひ／稽古能／あげ麩

同

五十四

／精進腹／分別所／早かご／野

郎翫び／けいせいにならびのた

とへ／まくらをどり／ばいまは

し／あふぎひきなんこよびて／

力こぶ／鳥のしたのやのね／く

れゑん／こんがう／つぼいり自

慢／かため証文／さんげばなし

／（何隠すべしと）キヲシトイフ誤格

○さくらだい／地引／二階ざし

き／せんじちやがぶく／か

ぢくろしき／新三十石／しほを

ふむ／家のさしづ／あみがさの

をこしらふる／象牙の掛羅ケハより

もぐさととり出す／いととり／て

ずまふ／こもり堂／手あひ／し

まつ 倭約ノ事／一文おしみ／田

舎／定宿／なしぢのぬり長もち

／四季のねだうぐ／まくらばこ

／たばこぼん／水のみ／ひあふ

ぎ／数長持

同

五十六

○はかた小女郎／カブキモノ／

はかたくるわのさま／芝居子／

遊女のかひ論／ゆかたぞめのか

たびら／中もみのきやふ／さみ

せん／おかざき／初心さ／しん

きしのたけ／はやり哥／いき過

同

五十五

／あらひがきのあはせかたびら
 ／花色羽織／紋所の寸法／かま
 はぬのもじ□□／もんもうなる
 出たち／あひもんのことばをつ
 かふ／手かご／はしたげに／は
 りばこや／くみ帯や／かつにの
 る／小ざうりとり／人形まはし
 ／たゝみやたい／上まくつらか
 くし／くびおとし／六段／出来
 坊／しのだづま／庭山／くはぞ
 めの木綿たび／おもひざし

○三軒屋／あはぢにかよふしか
 のまき筆 小 哥／ござぶね／石
 持つる／さゝぶきのかりゆどの
 舟中／たいすゞきの生舟／あ
 ふぎ流し／花火／うすなべ／水
 ざうする／野郎／紋付の小盃／
 てんがうのみ／ざつとみてかへ
 らう／としがまへなる男／きぬ
 ちゞみ／ひろそで／わうへいに

同

五―七

よぶ／大二階／金の間／湊紙の
 こし張／四尺の長づくゑ／唐物
 道具／木まくら／三味せんの奉
 加帳／へをひる女郎／火ざら

○大気／太夫職／衣裳よくきこ
 なし／すしに見ゆる／巾のなき
 男／座配／名ヨ フシギニトイフ意
 ／召連の者／さしすての盃／太
 鞍女郎／やりて／あのはず／よ
 しなに申なす／こざかしき／命
 ぎり／きのどく／まへかど／お
 やかた／加賀どのさばき／きち
 じよ／きさま／くろかみをぬか
 す／猿してあそぶ／あんまとり
 ／はやくち／主もち／出口のあ
 んどん／よこがほ／むごうあた
 る／もめんのときあけ物／きせ
 ／みそこし／とうふより出しこ
 まかなるもの／てきさま／匂ひ
 あぶらうり太右衛門／しろりん

同

六―一

ずのふたの／やつこ三笠

○もろこしもち／の平／嶋さき

同

六一二

／松の木陰は時雨のあめかのは
やり哥／口拍子／きゝ男／てく

だの勘定／かくしづくなし／お

もひど／けが／風義／わき顔／

きやしやがる／すんど／屋内は

んじやう／尋常には申さじ／な

り恰好／しゝのる／眼ざしぬか

らず／琴のひき手／三味線はえ

もの／一ざのこなし／文づらけ

だかき／長ぶんのかきて／夕霧

／なづみ／△雨の夜風の夜ゆき

のみちをもわけて／上する女／

小ざしき／よびつく／こひのぬ

けみち

○すゞみどこ／長七さげたばこ

同

六一三

ぼん／うつけもの／与七になる

下男の通称か／つるべなは／人

のおかさま／かづきをきする／

ゑんぺん／おくざしき／心中箱

／かための証文／血文／肉つき

の爪／ぜんのつな／らくがきの

ひむく／血しぼりのしろむく／

十六形の地紫／もんつきのさみ

せん／すがたゑのかけもの／お

りだしのしまちりめん／きさま

／かけこむ

○風がのまする酒／つれいびき

同

六一四

／弓矢八幡大事は今／はぎりす

る／よびましやといふ声／ぬり

げた／さしかけからかさ／ちや

がま／わん箱／こどりぶな／さ

かなかけ／竹樋／ひぢりめんの

下帯／むりどり／あやけんの巾

着／用心時のよみち／いやな事

／むごし／まながつおのさしみ

／くるみあえのもち／庭鳥のほ

ねぬき／山のいものにしめ／つ

ちくれ鳩／せりやき／あるへい

たう／なまがいのふくら煎／ほ
かけ舟の重箱／西瓜／出齒^{では}／と
ころてん／うまいな^ア／なんと
／おけそくのだんご／初雪火燧
の火にて／わるくちひ

○姿の入物／おろせ／ぎよけい

同

六一五

と申をさめ／さこが大福いはふ
／あんす く／そいろいろのお
んはだつき／かばじゆす／こぼ
れ桜のちらし／五色のきりつけ
ばね はごいた はまゆみ 玉
／おもひ葉／くれなるのくけひ
も／ぬきあしのぬめり道中／う
はき／中二階／なげぶし／した
んのつぎ棹／おかたぐるひ／座
配／すいらしき男にはまらせ／
初心なる人／しかけのかはる事
／床の手だれいやしからず／身
ごしらへ／うがひ百度／よこが
ほ／引ふねの女郎／それ く

申 く／女郎ぐも／いらふ／
聊尔／おろさるゝ／無念^{むねん}／きさ
ま

○京女郎／江戸の張／大坂のあ

同

六一六

げや／（何か有べし）キラシトアヤマ
ル格／口舌の上手／吉田のつけ
合／よこをゆく／酒ぶり／かさ
ねのみ／むりをさかなに／酔狂
／かななべ／くろちやう／かい
やりすつる／よこてをうつ／二
のあしをふむ／犬にさんたさす
る／こき手／八王子のしば売／
神田橋たてる願人坊主／金杉の
馬宿／御町^{おちょう}の辻／雲目^{うもめ}風目^{かぜめ}

○本奥島／すみ絵に源氏／もん

同

六一七

所ちいさき／くろそでぐち／山
みちのすそとり／目せきがさ／
うねたび／もみのくけひば／す
あし／けふりくらべ／焼亡だき
／紙子羽織／了佐極の手鑑／も

つたいなし／尾州の伝七／誓紙
つきの羽織／すれもの／起請／
名ヨのしなし／世上／△恋の渕
／引ふね／おてき／せんじちや
をあらため／柳につらぬきしも
ちばなをちらす／きやしやづく
／むかふ齒／内証ばなし／たり
あまり／尤愛さ／もつてひらい
て／大よせ／二日酔／下卑る／
けいせいぐるひ／ゐんつうはあ
りおやはなしうきよはひま／世
間の盛／諸訳まさり草／ふとこ
ろかゞみ／強蔵／みだれ姿／お
ちやのよい／△むかしく

○太夫姿／こしつき／利発／風
同

七一

ひ　くだりもの也／高橋　橘のも

ん／水こしのせんぎ／三の間の
水／中立あつてのしらせに／獅
子をどりのさみせん／さんばさ

うのぬひもん／くれなるのから
ふさ／をなが鳥のちらしがた／
ちごびたひ／金のひらもとゆひ
／みだれ口／金錢銀錢／赤面／
肝いりがほ／こひは互／しんぞ
く／ひざまくら／さても命は
の　　唱歌／なげぶし／あやかりも

同

七二

○しろしゆすのあはせにかのゝ
雪のぶにあきのゝをかゝせ／か
をる　遊女／ひとつばなし／か
くし緋むく／たまごいろのちり
めん／おもひ入のかず紋／薄単
のまがいおり／はおりはごろふ
くれん／しまびらうどのうら／
町人ごしらへ七所の大わきざし
／あいざめ／四つ目貫／単屋が
藤色のいと／平いんろう／色皮
のきんちやく／めのうの二つ玉
／からきざいくのねつけ／あふ

ぎ十二本／ゆうぜんがうき世ゑ
 ／うきよ絵／こぎくのはながみ
 ／うんさいおりのふくろたび／
 中ぬきのほそを／大ざうりとり
 ／日野のせんだくきるもの／し
 まつけんやくの事／さばき髪／
 そげもの／しゆる簪／むしこ／
 かけ小鯛／かけとうがい／つる
 べとり／炭けし／醤油のかよひ
 ／上々吉子おろしぐすりあり／
 同日やとひのとりあげばゝあり
 ／△しよまう／／もんさく
 ／こしをよる／遊山／小坊主／
 末社／はちひらき／かみくずひ
 ろひ／あまべ 余戸 非人ノヲル
 所也
 ○名書／きもをいる／辻あんど
 う／男自慢／びんあつき／子細
 ／きさま／おてき／此中のしだ
 し／紋日／かひがゝり／小麦ま

同

七一三

づき／きわたのちりをよむ／炭
 俵のあい／しべ簪／さゝげめし
 ／ひだらむしる／百錢をぬきて
 ／目の子ざんやう／小判がしの
 利／何ほどにまはる／きさま／
 合力／日がしの金子／きもいり
 ／とりこみ
 ○わけしり男／やりくり／石筆
 ／十団子うる女／酒ばやし／び
 んさゝら 唱哥／こずにまたす
 るとはうらみ／しりからげ／
 道中付のあふぎ／京の北向／恋
 の関の戸／新ばんのもんづくし
 ／浅草川の二てうだち／身ぶり
 を直し／襖障子／八畳敷の小座
 敷／てき／初ゐの子の日／盗あ
 ひ／惣鹿子／胸高帯／あし取／
 禿は対の着物／やり手／六尺／
 女房乗物／かゝしう 妻衆歌／引
 わたしのさゝ事／ぼか／／と

同

七一四

来る／なぞかける／とけしなき
／直付ちうけ

○中戸／一盛り／日帳／同文章

同

七一五

／朝ごみの客／かたへ／まざ

／／寝ごい／呼つぐ／車屋／

道行の浄瑠璃／あづまのそらは

そなたぞと／△紋挑灯／かたさ

ま／ござんじの／いや男／誓紙

／かた様／千日寺／おてき／わ

けあしからぬのきやう／ぎんみ

の上／八まん気に入る／独笑ひ

の御はだぎ／――の首尾／ちよ

ろけん一巻／話気わけ／むごきしか

た

○雑書／あづまうけ出し 金三百

同

七一六

両／まぢかねの山／活計歓楽／

夢の春／あづま死ぬ／忌日 延宝

五五八／ありべいかゝり／てき

／萩の袖垣／かいどり前／のね

板の戸／したちまど／一たきす

そにとむる／身持／うろたへて

も／手くだ男／きもいる／ざし

き踊の仕舞／みだれ姿／真木の

戸袋／つりあんど／口がため

／ぐんないじま／とびいしの上

の引下駄／なじみの人／太夫冥

加／はしのか／しんきのかた手

／くわんぜごより／かるこ も

つこの事か／天目／つけ山椒／し

らぬが仏

○あさぎのあさ上下／ちやこも

んのきるもの／しやばで見た弥

三郎どの／色里／いのちのせん

だく／鶯の太兵衛／高間 だかま

／長持／きりのと 金の事／ぜい

るかる口／不祥ながら／にくか

らぬ首尾／△しのびかご／よる

の道／やきみそ／四つづかのち

や屋／あみ戸／かごのもの／片

見世あける／高橋さま 遊女たか

同

七一七

はし／朝詠／これが唐にもある

べきや／夜前／岩倉の松たけ／

中碗 さかつき□□／おかた 妻ヲ

いふ／人ばしかくる／床机／つ

れびき／すぎしゆかり／あさま

／三つぶとん／かへよぎ

○物の自由／たのしみ所／龍宮

浄土／きだてのしれぬ／末社／

神楽／石州／よみや／行人が水

へ入より／やすい事／諸願成就

／御無心／しろちりめんのなげ

頭巾／樽折／重肴／枕箱／朱雀

の細道／氣鬱き／挑灯／かのさ

とのもんづくし／置火燧／くゝ

り枕／銀の間鍋／名酒／木具こ

しらへの茶漬めし／鴈の板やき

／赤いわし／色ぶくさ めい

く のみの — のみすての

たばこぼん／日本一／二口屋能

登／いはし水みやげ ちいさき弓屋

同

八一

蘇民将来の守／手形の十年

○のりかけ／目をかくる／した

てもの屋／智恵自慢／廿日帛／

かけろく／よねぐるひ／気なや

つ／作蔵／よいたはけ／かりく

び／日外／緋りんずのふんどし

／律義なやつ／古萩／あふぎの

かなめ／目くぎ竹／はり／きぬ

いと／もちのり／みゝかき／う

ちやうじ／代三文／たんと／

もみがのこ／ひつかへし／浅黄

八丈／八端がけ／上方女郎／寝

道具／（何か偽有べし）キをシといふ

誤格／（何をか隠すべし）誤格

○五人前をこしらへ／畜生門／

ほうれんそうのひたしもの／あ

りがたひはなし／立さまに／お

さめといふ オサメヨ也／御意次

第／やきしほ さけのさかな／を

せく／△紋日 なるこえく

同

八一

同

八一

／人橋かくる／女郎ぐるひ／水 あげ／きもいる／官活 <small>くはんくわつ</small> ／（紙に書 てまつよろこばし）紙花の事／式 き正の庖丁人／衣桁に十二の袖 をかくる／こよる　こよぎ欵／小 ぶとん／書棚／時代蒔絵／ふた つ手燭／はしのこ／時服／庭錢 ／帳付女	○遊山／社塔の建立／常灯／役 者子ども／つば入／木男／舟ば た　川岸のこと／舟ノキハマデ／みせ かけすがた／色河原／色里／常 舞台／物調子／金の大かななべ ／紅 <small>くれな</small> ゐのあみまへだれ／あや杉 のおもひ葉／みだれ遊びの大ぶ るまひ／三十五両のうづらのや きとり／衣襦人形／いやらしき ○たはけをつくす／傘さしかけ て／かたくま／世帯姿／宇治石 ／とこしき／いけ船／地黄丸／
同	同
八一四	八一五

5

西鶴大矢数
(書入れ)

女喜丹／りんの玉／おらんだい と／なまこ輪／水牛の姿／すゞ の姿／まくらゑ式百札／のべ鼻 紙九百丸／丁子のあぶら／山椒 ぐすり／ゑのこづちの根／みづ がね／わたざね／たうがらしの こ／牛膠／たしなみ衣襦／心に かくる／つかみどり	○日傘つる／椀をならす／伽や らう／水薬師／京童／ヘمامシ ／訓蒙図／金はわきもの／姫そ しり田／萩野朔庵 ○染物屋　明後日／地獄耳／な く子／元興寺／間宮藤太郎／文 の字の錢 ○金草履／畳ちやうちん／□□ 紙魚／大女房 ○蟹／古風盃／阿武丸／なぬか からす／はね字いふて廻す
大矢	同
二一十一	二一十二
	二一十三
	二一十四

○うき雲／手づま／彦作	同	二一十八
○七色／庚申／袖くらへ 盗也	同	三一二十一
○可憶上人／夢想挑灯／へうた ん公事	同	三一二二
○浄土双六／今竹之丞	同	三一二十三
○飛子／吉弥風染きぬ／いかの ぼりはやり出	同	三一二十四
○観世新九郎／蟻 熊野参り／ 十六むさし	同	三一二十六
○星野／佐吉／姫そしり堤／水 車 たれをまつやら／花若／か こひ 傾城	同	三一二十七
○虹たち帯／寢覚弁当／庄之助 ／木やり伝兵衛／金わらじ	同	三一二十八
○十郎兵衛／角田鹿目	同	三一二十九
○藤屋市兵衛／浮世茶屋／八丁 鉦／大とも大事／空心	同	三一三十
○信章	同	五一四十一
○助六	同	五一五十一
○惨	同	五一五十四

6 於路加於比上		
○不卜	同	五一五十五
○曲鞠 小芝居	同	五一五十六
○弥助	同	五一六十四
○夏羽織	同	五一六十六
○観世左近	同	五一六十七
○けなりい／引手／火打袋／久 七	同	五一六十九
○坊主麦	同	五十七十
○四方白かべ／雲助	同	五十七十三
○ぬけさやもち／肩入奉公	同	五十七十六
○天狗たのもし	同	五十七十八
○甫之	同	五十八十一
○▼飛子(この語、掲出丁の「十九ウ」 になし。三一二十四にあり)	同	五十八十八
○酒ばやし	同	五十九十六
○それは礒	同	五十二
○鴈は六百	同	五十三
○姥が餅	一目 三	
○可盃	俗つれ 一二	

<p> ○熊谷の大ぶりなる金の盃 ○織部盃 ○虎が石 ○十団子 ○『野郎虫』 ○大津絵 ○影絵 — 影人形 </p>	<p> 大矢 三—二十四 一目 二 一目 二 男色 五—三 一男 三—五 置土 五—一 俗つれ 四—三 四—四 </p>
<p> るを写出せる文章云々 </p>	<p> 粧飾佳麗を極め、精巧を竭した </p>
<p> 下 </p>	<p> 中 </p>

〔付記〕『おし花』『好色一代男』両書・頭書の難読字については、小池一行氏のご教示を得た。厚く御礼申し上げます。